

外国人保護者と若者のための就労支援事業

Job and Settlement Preparation Course for Migrants (JSPC)

特定非営利活動法人青少年自立援助センター
定住外国人支援事業部

本事業はNPO法人ジャパン・プラットフォーム休眠預金等活用事業
「2020年度新型コロナウイルス対応緊急支援助成（在留外国人支援）」採択事業です。



【対象者】 15歳以上の海外ルーツの方の内、以下のいずれかに当てはまる者

- ・コロナ禍の影響による減収、失業状態にあり、より安定した就労のため日本語学習機会and/or就労サポートを必要とする方
- ・コロナ禍の影響により、減収、失業状態になり日本語学習機会と就労サポートを必要とするにも関わらず、地域の日本語学習機会が休止または中止となったため、オンラインによる支援機会を必要とする方

★コロナの影響で「困っている」状態にある、海外ルーツの方

【事業背景】

外国人等支援・受け入れ体制

自治体間格差

ボランティアベース

コロナ禍による影響

雇用の不安定化、失業、減収

困窮、孤立・孤独状態の悪化

相互扶助による外国人コミュニティの疲弊

日本語教室が活動再開できない/オンライン化
進まない（ボランティア高齢化等による）

次世代への影響

外国人学校退学等による不就学のリスク増加

高校等進学への影響
→貧困の世代間継承

【事業概要】

すべてのコースは通所（足立区・竹ノ塚）またはオンライン（zoom）のいずれかで受講可能。

事業期間：2021年6月10日 第1期受講開始～
2022年2月18日 第8期受講終了予定

対象者数：実数240名程度

・再就労や仕事の選択肢拡大のための就労支援および日本語学習機会を提供する。

・ニーズにより、1～4か月間程度の短期集中支援を通所かオンラインかが選択可能なハイブリッド型で実施。

初級日本語コース（1日5コマ×48回）

就労日本語コース（1日2コマ×20回）

・医療や福祉利用等の受援力向上に資するセミナーを実施。再減収・再失業等の有事に備え、自ら助けを求められる力や情報を得られる力を育成。レジリエンスを高める。

定住のための日本語コース（実施月・ニーズにより回数変動）

・関係機関等との連携と伴走支援を実施。「相談の先」の支援機会と地域内のつながりを提供。

・対象者の「発見」のため、関係機関等との連携を含むアウトリーチ活動を実施。

【事業イメージ】

多文化コーディネーター による伴走支援

◇対象者の環境調整
(必要に応じて、食料支援、民間
による給付金支援などと連携、申
請サポート等)

◇各種同行支援

◇地域支援者・関係機関等と
の連携

◇対象者—地域支援者間
コミュニケーションの促進
(本事業終了後も気軽にSOSを出
せる地域の中での「つながり」を
構築)

対象者の発見・誘導 (広報、アウトリーチ)

初回インテーク

・ヒアリング ・日本語レベルチェック ・相談 ・ガイダンス

個別相談等

日本語サポート

◇初級日本語コース (約2か月)
レベルⅠ : 5コマ×20回 / レベルⅡ : 5コマ×20回

就労サポート

◇就労セミナー
(自己理解、求職マナー、就業マナー等)
◇日本語で学ぶマイクロソフトオフィス
◇職場体験
◇コミュニケーショントレーニング
◇個別相談
◇ハローワーク同行等伴走支援
◇地域就労支援団体等とのつながり構築

日本語サポート

◇初級日本語コース
レベルⅢ : 5コマ
×8回

定住のための日本語コース

◇生活の日本語1 (行政支援、コロナ関
連、その他「援助希求力」の向上を図
る)
◇生活の日本語2 (日本社会・制度理解
情報獲得等、「レジリエンス」の向上を
図る)

就労日本語コース

◇仕事の日本語
◇キャリアプラン
の日本語
2コマ×20回

併用可

併用可

支援出口

地域支援者／関係機関
とのつながりの獲得

就労・より安定した
雇用環境の実現

就労選択肢の拡大

生活リテラシーの向上

援助希求力
レジリエンスの向上

【事業実績】

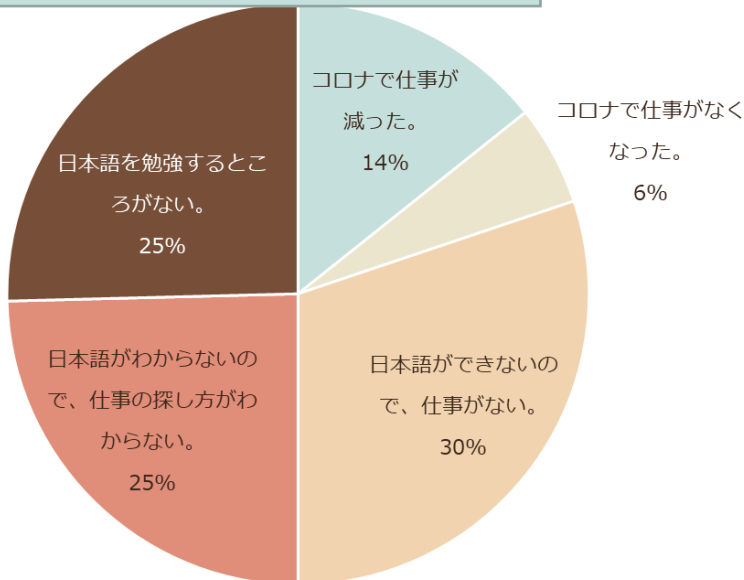
「外国人保護者と若者のための就労支援事業」

(特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム休眠預金助成金活用事業)

* 2021年6月～2022年2月までのコロナ対応緊急支援事業

- 対象者層：コロナ禍で減収・失業等「困っている」状態にある方
- 利用者数：**231名（2022年2月20日現在）**（内、日本語初級クラスからの利用者 133名）
- 年代：10代 6%、20代 32%、30代 27%、40代以上および未確認 34%
- 利用形態：**通所2割、オンライン8割**（東京、神奈川、埼玉、大阪、千葉、三重、広島、福岡など23都道府県より）
- ルーツ：エジプト、シリア、フィリピン、中国、日本（日本国籍海外ルーツ）、ネパールなど43の国と地域より
- 受講料：無料（休眠預金活用）
- 就労決定率：**18%**（2022年1月31日現在 *単発の相談のみの利用者を除く）

利用者入所時アンケート
【現在の困りごとについて】*複数回答



Aさん
(利用前)

ひとり親として仕事をかけもちしながら子どもを育ててきたが、コロナで失業したため、生活保護の受給を開始した。働きたいが日本語の読み書き、会話もかなり限定的なため日中の仕事を見つけることが難しい。今こそ日本語を身に着きたい。

Bさん
(利用中)

アルバイトをしようと思っていて、先週スペイン料理の店の面接に行った。メールの返事はないので不採用だと思うけど、面接ではすべて日本語でやりとりできたので自分でもびっくりした

～多様性が豊かになる未来～
YSCグローバル・スクール (NPO法人青少年自立援助センター運営、東京都瑞穂市) は2010年から年間約120名、40カ国以上の国と地域にルーツを持つ子どもや若者に日本語教育、学習、高校進学や就学などのサポートをしてきました。

YSC Global School
YSC PO BOX 338-8

受講生募集中!
専門家による日本語教育
& 生活/就労支援無償プログラム

外国人保護者と海外ルーツの若者のための
コロナ対応緊急就労支援プロジェクト

日本語教育・就労・定住支援を通学/オンラインで実施!
コロナ禍で日本語がわからず困っている海外ルーツの若者や外国人保護者、難民等、生活者の方を対象とした緊急プロジェクトです(2021年6月～2022年2月実施)。平日5日間×約3か月、集中的に学習しながら、支援者の方や関係機関と協力の上、日本語力向上や就労・生活課題の解決を目指します。通学(東京都足立区)、オンライン(全国)で受講でき、受講料はすべて無料です。周りにお困りの方がいらっしゃる場合、まずは問い合わせフォームよりご連絡ください。
※本事業は特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームによる特定非営利活動助成金(2020年度新型COVID-19大流行緊急支援助成金(外国人保護者支援事業))を受け実施するものです。

初級日本語1～3
日本語ができない方(初級)が、会話ができるようになるまで、個別指導を行います。

仕事の日本語
日本語初級レベル以上の方が、就職活動のための日本語や職場でのコミュニケーションを学ぶコースです。就労に必要な知識やコミュニケーションを学びます。

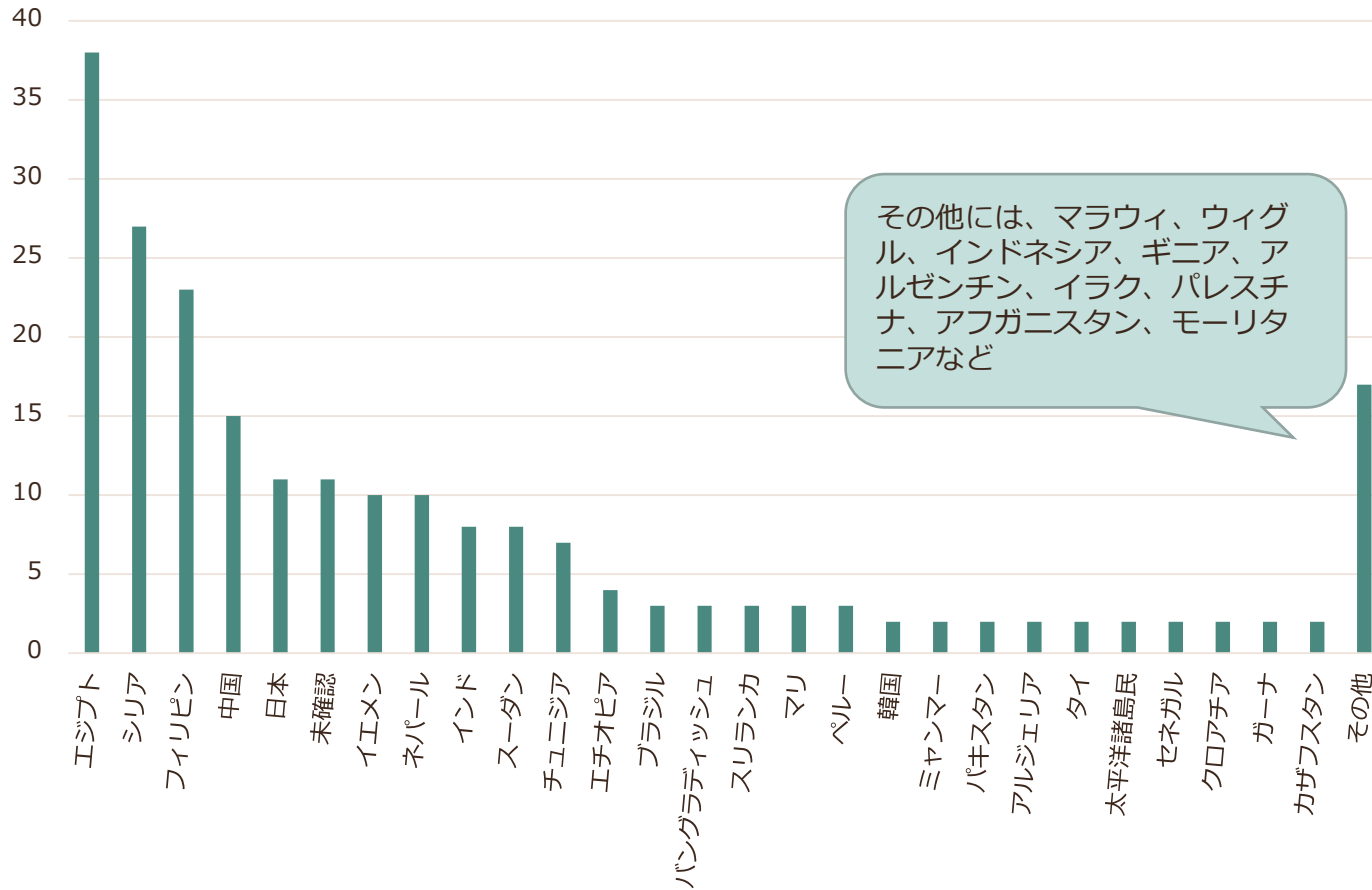
定住のための日本語
やさしい日本語で日本社会の制度や仕組み、多言語情報の手方法、生活に必要な知識やコミュニケーションを学びます。

相談/支援/セミナー
生活の困りごとや就職活動に向けた相談・支援・セミナーを、多文化コーディネーターやキャリアコンサルタントが行います。

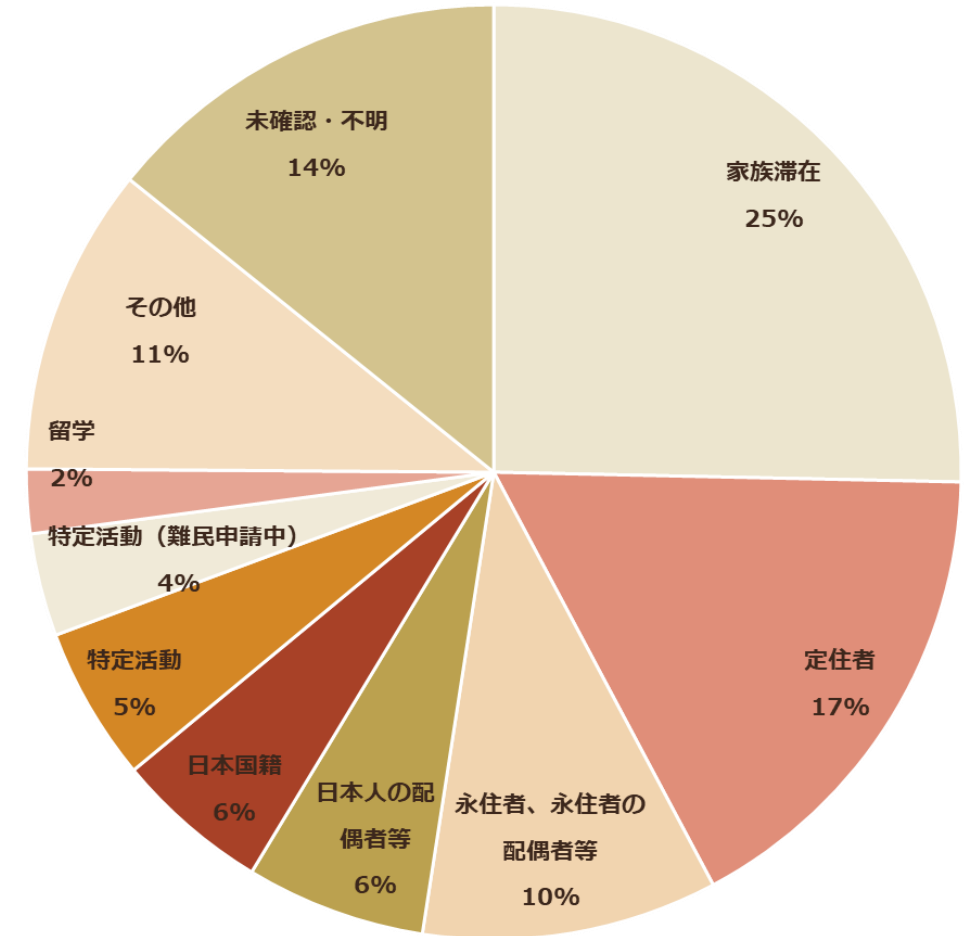
YSCグローバル・スクールあたら・竹の塚教室
TEL: 03-5822-1611 HP: <https://www.kodomo-nihongo.com/index.html>
Mail: jppc@kodomo-nihongo.com

【利用者状況】 * 1月31日時点の集計

利用者国籍・ルーツ別内訳(n=225)



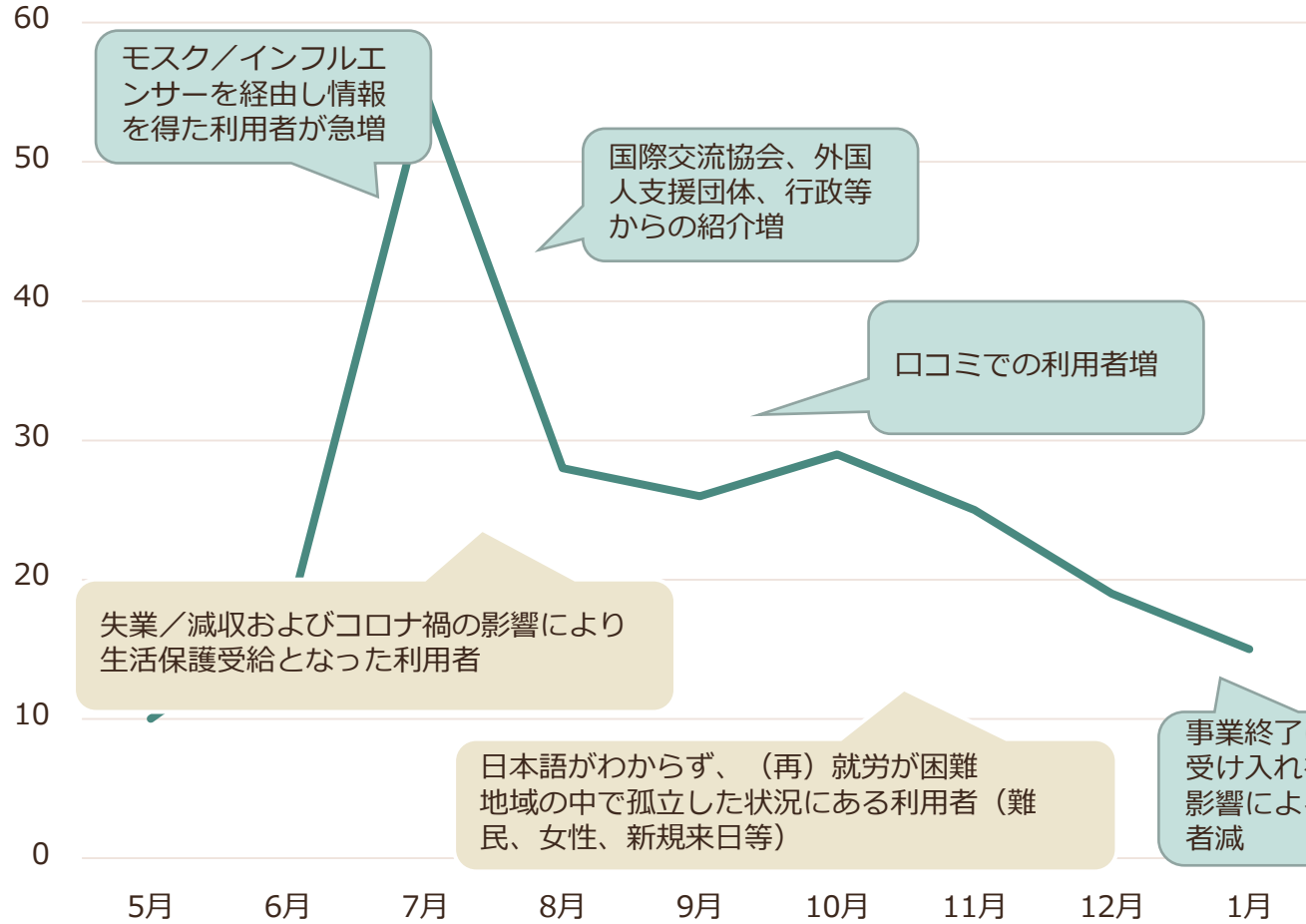
利用者在留資格別内訳 (n=225)



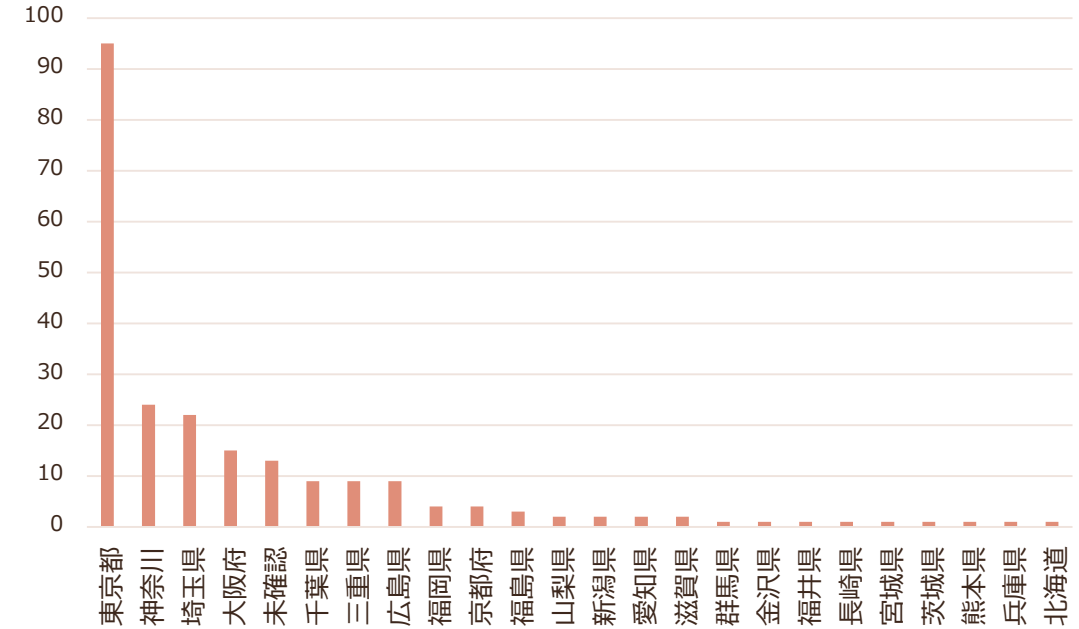
64%が
身分に基づく在留者

【利用者状況】 * 1月31日時点の集計

月別新規利用者の推移（n=225）／相談のみの利用を含む



利用者居住地域別内訳（n=225）



都市部からの参加が多いが、
散在県からの利用も広がっている

事業実施から得られた知見

- ・感染拡大が続く第6波の中で、再びシフトが減らされるなどの影響が懸念される
- ・日本語がわからず、（安定）就労につながらない海外ルーツの若者、生活者は後を絶たず、貧困の悪循環を引き起こしている。（新規来日者は減少しているが、これまで「放置」となっていた海外ルーツの方がコロナ禍で可視化されている）
- ・仮放免者、難民、家族滞在者など「就労」に壁や制約がある方々にとって、日本語でのコミュニケーションは、日本社会から孤立せずに生きていくために必須のスキルである。
- ・事業でかかわりを持った利用者の方々に共通していたのは、想像以上の「孤独感」であった。日本語学習やセミナー等、本事業を利用することで就労や生活に必要なスキルの獲得だけでなく、オンラインであっても、定期的に同じような状況にある人同士が出会い、つながりあうことのできる「居場所」となったことは副次的な効果ではあるものの、利用者だけでなく支援者側からも評価の高かった点であった。

今後の見通し

- ・ コロナ禍による影響は終わっておらず、第6波以降も引き続き海外ルーツの方々の苦しい状況は継続すると見られる。
- ・ 日本語がわからないことで、若者や生活者は就労に困難を抱えるだけでなく、社会的に孤立し、必要な支援にもつながりづらい。

これらの状況から、

- ・ 海外ルーツの若者・生活者等「困っている」状況にある方を対象とした日本語教育機会、就労支援機会は重要な取り組みであり、継続の必要性が高い。また、海外ルーツの方々が「困らない」状況の創出（予防的支援）という観点からその拡充が急務である。
- ・ 孤立した状態にある利用者を中心に、利用者居住地域近隣関係諸機関や支援団体、支援者とのつながり創出が重要であり、「日本語教育から地域へ」「オンラインから地域へ」の橋渡しが速やかに行われることが重要である。